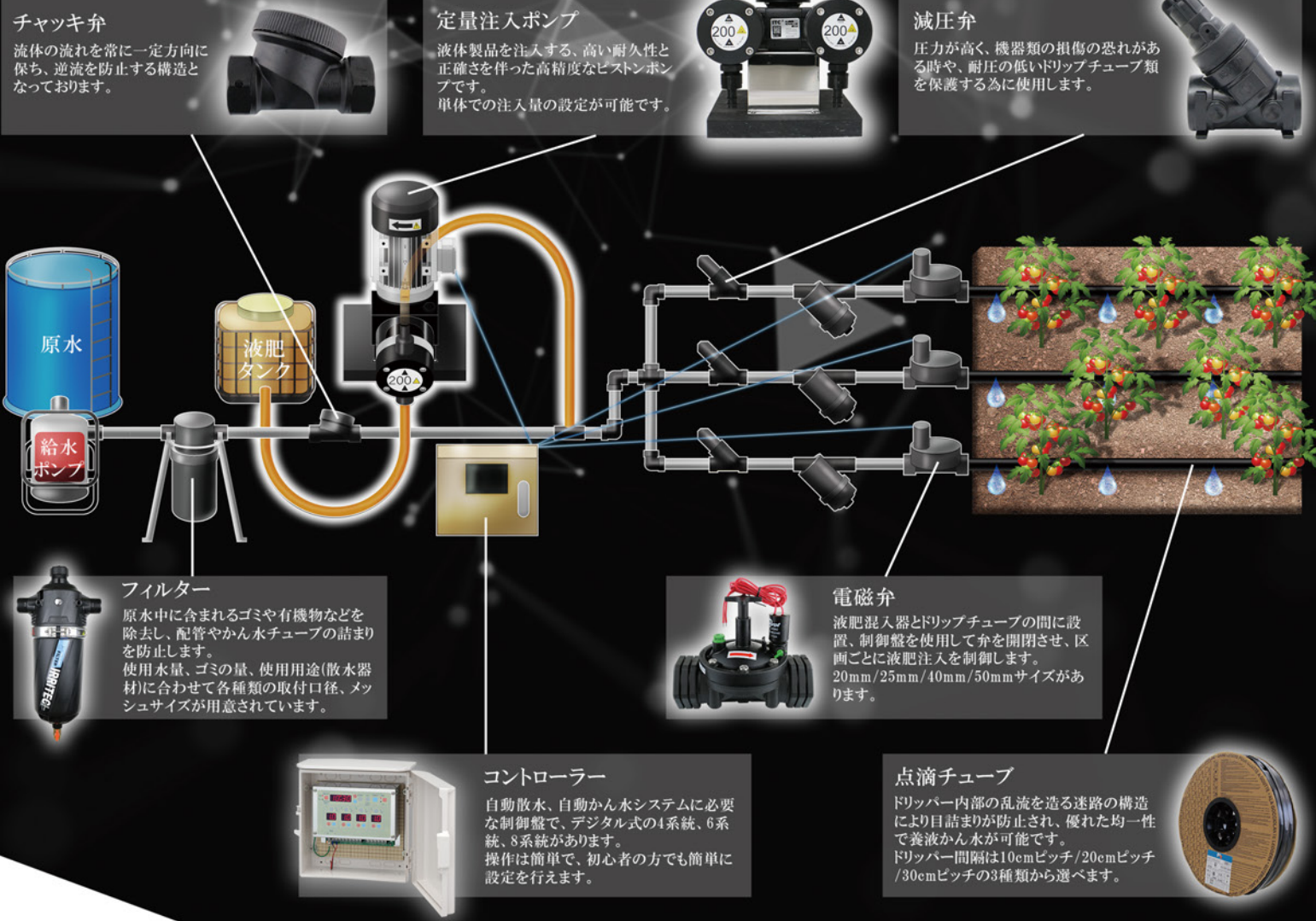


◎養液栽培などの管理システム配管上での使用

※イラスト図は配管例となります。



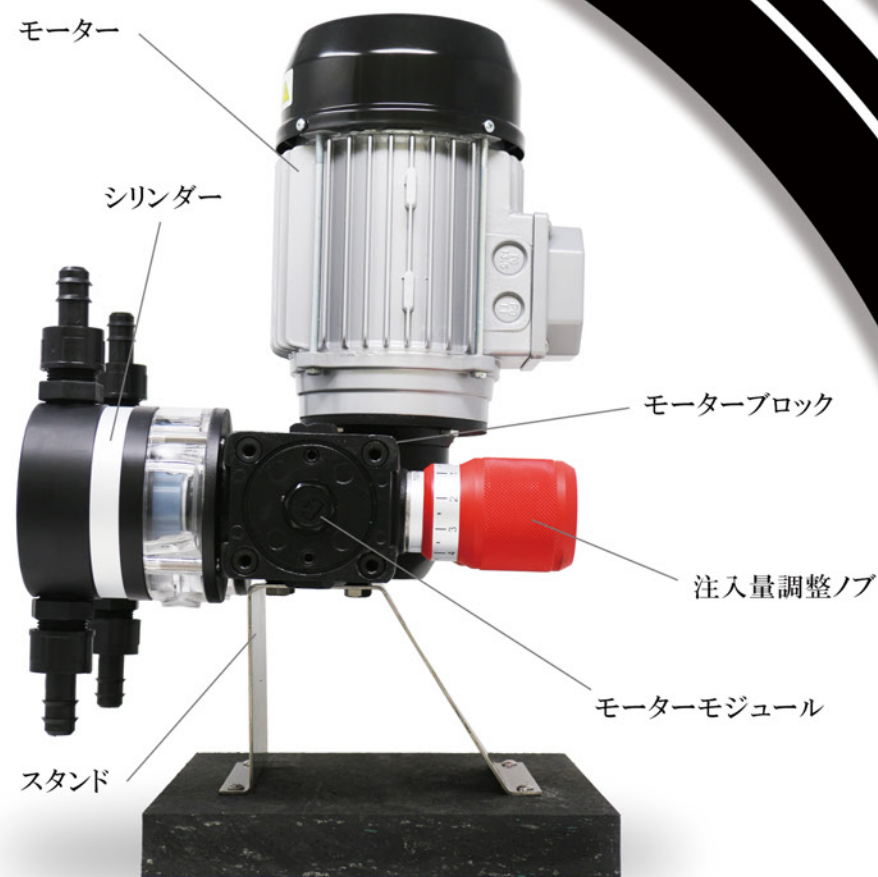
電気で動作し、コントローラーでの作動ON/OFF切り替えが簡単に行えます。
マルチファーマティック単体での注入量の設定や配管流量・多少の圧力変動に左右されずに定量注入が可能です。
上記の点から、管理システムを用いた散水環境での使用や、大規模な養液栽培・少量多灌水を行う環境下での精度の高い液肥散布を行えます。
上図では点滴チューブを使用した養液土耕栽培システムの一例です。
コントローラーを使用することで定量注入ポンプの作動ON/OFFはもちろんですが、電磁弁の開閉による散水ラインの制御も可能です。

マルチファーマティック 定量注入ポンプ

安定した液肥供給
圧倒的な注入量



マルチファーマティック定量注入ポンプ



マルチファーマティック後方の注入量調整ノブで希釈倍率の設定を行います。希望する希釈倍率にあわせて、使用水量(かん水量)から注入量を設定します。

モジュールの容量は、50L/100L/200L/300L/(L/時間)と多種類あるため、目的に応じた選択が可能です。

◎農業用途向けに開発された注入タイプ

ユニットモジュールは最大で3個まで取付が可能のため、本体1台で1液～3液までの構成が可能です。各モジュールは独立しているため、独自に注入量を調整できます。また、2液3液構成での使用でも本体内で液肥等が混ざることはありません。ユニットモジュールのみの商品も取り扱っていますので、設置後でもモジュールの追加取付が可能です。



◎配管の手軽さと安定した液肥供給

注入継手を使用するため、配管状態に応じた取付が可能で取付方法も簡単です。配管流量や多少の圧力変動(※下記性能表に記載の最大注入圧力範囲内)には左右されずに定量注入が可能で、常に安定した液肥注入を行えます。



◎目的に応じた多様な使用方法

□大規模な圃場、農場での一斉散水が可能

最大注入量が毎時300Lと多く、果樹、露地作物など吐出量の多いスプリンクラーを使用した散水に使用するのに適しています。また、圧力損失が無いため大規模な点滴かん水を行う環境での一斉散水も可能です。使用するスプリンクラーや点滴かん水方法、使用する液肥の数、配管場所(※)にとらわれることなくマルチファーマティック1台で幅広い運用が可能です。

□配管流量・圧力の増加が可能

毎時300Lまで注入が可能のため、ポンプの代わり(※)として水を注入することも可能です。流量が不足、又は流量に余裕のない場合などにも水の注入を行うことができます。また、マルチファーマティック自体に圧力損失は無い為、配管上の流量、圧力の維持が可能です。

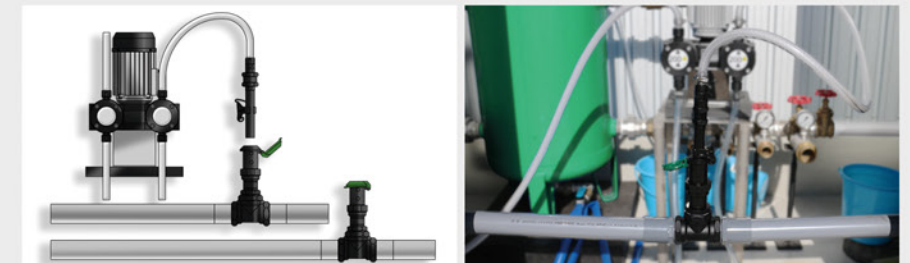
(※電気環境がある場所に限られます。)



※写真は配管例となります。

◎1台で複数個所での使用も可能

配管設置式ではなく注入弁の取付での使用のため、クイックライザーバルブ等の継手を使用することで、本体を移動させて別の配管に取り付けることも可能になります。(※電気環境がある場所に限られます。)
マルチファーマティック1台で複数個所での液肥注入が可能になるため、作物やブロックごとに合わせた細かい液肥供給を行えます。(※クイックライザーバルブは、配管内の水を止めた状態で脱着を行ってください。)



※写真は配管例となります。

◎型式と性能

1液タイプ



60MF2-050/100/200/300

2液タイプ



60MF2-050/100/200/300×2

3液タイプ



60MF2-050/100/200/300×3

■電源/電圧：三相 200V 370W

型式	最大注入量(L/時)		最大注入圧力 MPa
	50Hz	60Hz	
60MF2-050	50	60	1.5
60MF2-100	100	120	1.5
60MF2-200	200	240	0.8
60MF2-300	300	360	0.5

最大注入量は300L/時、注入圧力は0.5MPa～1.5MPaと、配管流量や圧力を多く必要とする散水状況での使用が可能です。そのため、配管直付けの比例式液肥混入器の使用領域を超える場合でも使用が可能で、本管の配管条件による機種の変更等がありません。しかし、高圧注入が可能なポンプ式のためメンテナンスを要する場合がございます。

